



学校だより 11月号

【学校教育目標】「力を合わせ 笑顔が光る日限の子」

令和4年10月27日

横浜市立日限山小学校

〒233-0015

港南区日限山二丁目16番1

TEL 045(841)6561

「運動会物語」

～運動会には一人ひとりの小さなドラマがある～

校長 岡崎 陽子

明日と明後日は本校の運動会です。10月に入っても秋晴れが続かず、校庭での練習が思うように進まなかったこともありましたが、子どもたちは、運動会への気持ちを高めながら競技や演技の練習に取り組む、係の準備をしてきました。一人ひとりが自分の力を出し切り、輝いてほしいと願っています。

運動会は、学校の教育活動の中でも大きな行事の一つです。学習指導要領では「特別活動」の「学校行事」に位置付けられ、その中の「健康安全・体育的行事」として取り扱われます。内容は「心身の健全な発達や健康の保持増進などについての関心を高め、安全な行動や規律ある集団行動の体得、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵（かん）養、体力の向上などに資するような活動を行うこと」とされています。

何か難しいことを言っているように感じるかもしれませんが「心身の健全な発達や健康の保持増進」は、私たちが生涯に渡って取り組んでいく課題の一つです。運動会の当日だけでそれを身に付けるというより、運動会に向けて取り組んでいく過程でそれを体得するということだと考えます。

保護者や地域の方々も運動会を経験し、様々な思い出をお持ちのことと思います。その思い出の中には忘れることのできないエピソードも伴っているのではないのでしょうか。一人ひとりの小さなドラマがかけがえのない「運動会物語」をつくり上げています。

私にも忘れられない「運動会物語」があります。私が6年生の担任をしていたときの運動会のドラマです。曲に合わせて体操の技を次々に行うという演技中、背支持倒立（首倒立）で静止する場面がありました。その時、前から2列目のIさんが腰を高く持ち上げた時の勢いが余って静止できず、そのまま後ろにでんぐり返ってしまったのです。Iさんは一瞬何が起きたのか分からないという顔でしたが、すぐに真剣な面持ちで次の技をし、最後までやり通しました。日頃の授業で、斜に構える姿を見せることも多かったIさんでしたが、照れ笑いもせず、表情を一層引き締めて、すぐに演技を続けた姿に胸が熱くなったのを今でも思い出します。6年生を担任する度に、Iさんの話を子どもたちにしてきました。

練習ではうまくできていたことが、本番では失敗してしまったり、いつも勝っていたのに、本番では負けてしまったりすることがあるかもしれません。そういう時、途中でやめてしまったり、ふてくされてしまったりするのではなく、すぐに気持ちを切り替えて、次を目指して真剣に全力で取り組んでいる姿に、見ている人は感動するのだと思います。

今年の運動会でも、子どもたち一人ひとりの様々な「運動会物語」が生まれることでしょう。その物語を子どもたち同士が、そして私たち大人も一緒に共有することが「運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵（かん）養」の土台となると考えます。

児童会活動で決めた運動会のテーマ「一致団結！全力勝負！～学年をこえて、心をついにしよう」に向かって、子どもたちも職員も一丸となって取り組んできました。皆様におかれましては、運動会当日だけでなくこれまでの子どもたちの頑張りを含んだ「運動会物語」に共感していただけたら幸いです。